平新報

毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町南町七七 平新報社
廣告料五號十二字詰 一行一回五十錢 場所指定倍増
送料定價共一部金十錢

題三週年

○○○○○○○本日本紙の創刊日

紙齢四十一

愛讀者後援者有志に畧儀ながら紙上謝意を表し倍舊の聲援を乞ふ

本紙が大正十四年八月二十五日孤々の聲をあげて滿二ヶ年、號を遂ふ事四拾一渾沌たる平操觚界によく闘つてきた

× ×

そも「鐵脚縱橫」に平町三十名町議禮讃で町議諸君のメンタルテストを行つて或る暗示をうけ、又第三種郵便物認可申請で露骨に時の平郵便局長に其經營の如何を疑られ公開狀を掲載して意氣と實力を示した

× ×

去る七月七日解散した、時事研究會は大正十四年十二月十五日大和田與平、久野眞宏雨氏の提唱で發會式をあげたのであつた、而して最初の主旨に反し會を重ねてありきたりの寄附によつてゑべく墮したのは殘念

× ×

越えて十五年四月五日に平町へ散水車の必要を力說し、七月廿五日よりメートル法實施の宣傳に努めた其間、磐中新校舍落成の紀念號を發行して祝意を表す

× ×

本年になつて磐炭爭議、磐城講道館有段者會の設立等、多事多端のうちに縣議改選を控えて三週年を迎へたのである

× ×

これ偏に地方有志讀者諸彦の御後援による處で今後共倍舊の御鞭韃と御援助を辱うし筆硯を洗新し使命に向つて善進せんとす

磐城講道館有段者會

二十二日於磐城中學校 炎熱と闘ひ莊嚴裡に行はれた

第一回審査會．總會

次回は明年二月十一日中村町に開催の豫定

磐城講道館有段者會第一回昇段審査會及び總會は去る二十二日磐城中學校柔道場に於て開催された、定刻までには郡内は勿論遠く双葉相馬方面から走せ參ずる猛者もあつて盛會を極めた審査員も他所に見られない多數で磐中の橋本四段、相馬中學の齋藤四段、原町相馬農蠶學校の午來三段、湯本品川白練瓦の州川三段、湯及び當地の鈴木三段、青天目三段、草野三段、岡田三段等で終始一貫して熱心に審査の歩を進めた、定刻より一時間後れて午前十一時橋本副會長の開會の辭及び**勝負**に就いて左の**注意**があつた

1 試合及び審判の方法は講道館の規定に依る事
2 第一回戰に於て負けたる者は第二回戰に出る事を得ざる事
第三回戰も同樣
3 引分二回續けたる者は次回に出る事を得る事
4 番組は抽籤による事

右注意終つて齊藤四段審判の下に左の如き試合が開始された

第一回戰（齊藤四段審判）
×（富　永（双中）／志　賀（磐中））
○（鯨　岡（磐中）／高　木（湯本））
○（近　藤（中村）／關　内（平町））
○（小　泉（湯本）／木　幡（平町））
○（遠　藤（磐中）／高木［長］（湯本））
○（大　田（湯本）／石　井（湯本））
○（山　口（泉村）／小　島（磐中））
×（佐　藤（磐中）／花　園（磐中））

第二回戰（午來三段審判）
第一回戰に於て引分、又は勝ちたる者のみ
×（富　永（双中）／高木［長］（湯本））
×（鯨　岡（磐中）／關　内（平町））

第三回戰（洲川三段審判）
×（志　賀（磐中）／木　幡（平町））
○（大　田（湯本）／花　園（磐中））
○（小　島（平町）／佐　藤（磐中））
○（關　内（平町）／高木［長］（湯本））
×（鯨　岡（磐中）／木　幡（平町））
○（小　島（平町）／花　園（磐中））

第四回戰（橋本四段審判）
第三回戰まで戰はざる者のために試合せしめたり
○（遠　藤（磐中）／佐　藤（磐中））
○（小　泉（湯本）／山　口（泉村））
○（志　賀（磐中）／石　井（湯本））
○（富　永（双中）／高木［不］（湯本））

第五回戰（橋本四段審判）
第四回戰に於て引分又は勝ちたる者のみ
○（富　永（双中）／佐　藤（磐中））
○（志　賀（磐中）／山　口（泉村））
×（花　園（磐中）／近　藤（中村））
×（志　賀（磐中）／佐　藤（磐中））

◎二段審査の部
○（初段 樋口朝之助／初段 鈴木與一郎）
○（初段 樋口朝之助／一級 小島（平））
○（初段 樋口朝之助／一級 關内 甚平）

午後二時無事試合終了、橋本副會長の閉會の辭及び左の**注意**があつた

1 本日の試合の結果はこれから開かるゝ審議會によつて決定さるゝ故決定次第各方部の先生に通知す
2 万一不幸にして昇段し得ざる者も本日の試合を見れば何人もよく判る樣に昇段をさる程遠くない實力があるのだから次回まで大いに稽古されたし

午後二時半より審議に入る二段の候補者二名に對しては第一回の審査會でもあり且つ嚴密を尙ぶ上からも次回の審査會に讓る事に決し

初段に通過せる者は左の十名なり

原町 松永龜次
相馬農蠶校 永田新
磐城中學校 荒川來四郎
平町二丁目 關内甚平
中村齋藤道場 近藤
品川白練瓦 高木長
磐城中學校 志賀
同 花園
平町四丁目 小島
平町 木幡

右審査會の結果新進の初段十名が本會員となる譯で來る十月頃講道館から正式に初段免許の發表ある筈なり

次に**總會**には在中幹事及審査員多數の出席を見たり加藤、關内兩幹事は旅行中にて不參、顧問鷹崎五段も遠く横濱より來會の筈であつたが急用の爲め不參の旨電報あり

議事に入り左の數ヶ條議決された

1 福島有段者と磐城有段者會の會員に就て
これは講道館々福島有段者會の諒解の上、濱三郡即ち磐城有段者會の成立を見たのであるから、濱三郡在住の有段者は當然磐城有段者會員たる事
2 會員名簿に就て
右の如く會員の範圍確定せる上は速に有段者會々員名簿を作製し會員の住所職業其他に就いて明細に記入し相互の便利を計る事
3 次回の總會に就いて
次回の總會及審査會の期日を來年二月十一日頃とし場所は中村町に於て開催する事、尚中村町に於ては斯道普及を計る目的にて過般六月平町に於て開かれたる發會式の如き催しとなす事

懇親會

次に同日夕刻より南町松本樓に於て審査會の慰勞を兼ね懇親會があつた、來會者は諸橋會長、中野・武川兩幹事、橋本・齊藤兩四段、午來・州川・鈴木・青天目・草野・岡田三段、本社山野邊等で開會に當つて

諸橋會長は左の如き謝辭と激勵の辭があつた

本日は誠にお暑い處を遠くは相馬、雙葉よりわざわざ御來會下れいまして我等の後輩青年の爲め長時間に亘つて懇篤親切なる御指導を下さいました事は私の深く深く感謝する處であります又審査を受けた者もさぞ滿足して歸つた事だらうと思ひます、吾等に本日この炎暑と戰つた意氣と体軀を以て斯道に精進し小にしては磐城の天地の指導者となり大にしては社會の木鐸たるの覺悟がなければなりません、何卒今後とも御自重御精勵下さいまして本會の目的達成に御盡力あられん事を切望してやまぬ次第であり升

右之簡單にして明快會員激勵するに充分な挨拶の後宴會に移り種々懇談をなし、盛會裡に八時散會した

御願ひ

本社又は小生への文通は甚だ恐縮ながら平町二丁目佐野屋旅館宛に御願ひ申し候

平新報社
山野邊眞立「庄吉」

普選に直面して 縣議逐鹿戰の火蓋は 切つて落されんとす

立候補者は何人!!! 何人? 今日其れが噂サに登る人々

本縣議改選日は愈々後余す所一ヶ月とはなつた、石城郡定員六名中何人が立候補するか一兩日中にな大勢決するものであらふ、即ち二十六日は民政黨の豫選會二十八日は政友會豫選會。この兩豫選會に於て政民兩派の所謂公認候補なるものが確定する事になるのであるが、果して何人が豫選され公認となるか今日豫斷を許さぬが兩派候補者の噂サを紹介して見れば

◎政友會 は舊政友側から木村清治氏出でずんば山崎吉平氏、新政友側からは井上茂作氏、鈴木辰三郎氏、小野晋平氏、郡南舊菊田方面より金成通氏の代辯者として古川傳一氏

◎民政黨 若松美三氏、木田織江氏出でずんば野崎滿藏氏、郡南よりは鷲清昇氏か大平睦四郎氏

◎中立 として田子健吉氏、青沼鉾太郎氏、但し此の兩氏は當選すれば當然準政友會と觀るべきである右のうち井上氏と野崎氏であるがこは平町としていづれの派としても一人の縣議を出しておく事は必要と認めて居るから兩氏とも必然立候補する事になるであらふ。殊に野崎氏は玉川、江名、勿來其他町村に縁戚も多ければ自信のある候補であらふ。次に

◎無産黨 の擡頭であつて山代吉宗氏等の立候補ともなる事であらふし、普選に入つて初めての逐鹿戰、洗練されざる一般有權者の事、いかに勝負つけらるゝかは想像に苦しいものである、吾人民衆有權者は此際何人を選ぶべきか、政黨政派一派に偏してはならぬ、人物本位である、地方のため民衆のために貢獻する代表を選ばねばならぬ事は今日此處に力說の要あるまい、本紙は此の意味に於て嚴正批判：：號を逐ふてそれが逐鹿戰場面の眞相を報せんとするものである。如何に政黨の機關紙と申せど攻撃すべく攻撃し、離間策の報道をなす如きは一般有權者をして惑はすべきもので筆を執るもの、愼しむべき事で曲筆する如きは斷々乎として排せねばならぬ

新川柳

故鈴木唯七氏 追善奉燈句集

哀れさは博士になつて肺を病み　平　新坊
武士道に生きて貧しく世を終り　同　同
衆議院紳士といふが摑み合ひ　同　同
融通がどうにかついたビラを撒き　靜岡　舟遊
安泰と國の親父の御家流　川前　徐花郞
泰然と故人の在す靈祭り　平　東天紅
素人の芝居賑ふ村祭り　棚倉　有頂天
淸かりし故人の過去を偲ぶ通夜　平　新坊
惜まれてやたらに淸水手向けられ　同　磐陽山人
法號を稱へ淋しい顏が寄り　湯長谷　狂水
反對を稱へる奴に者默り　棚倉　有頂天
稱號も金も無益に捨てゝ死に　平　磐陽山人
稱名の珠數の手先で蠅を追ひ　同　滿壽莊
唯慾を捨てゝ心如の月を見る　西郷　八十瀨
院長は感冒症のせいにする　平　富水
融け合ふた心とこゝろ夜が更ける　同　新坊
安泰と思ふ日もなく母は逝き　米澤　梅月
褒められゝ嫁は姑の氣に入らず　羽前　默哉
モダーンに光る不良と刑事の眼　平　滿壽莊
良く出來て呉れる生徒へ感謝の眼　同　新坊
善良な女房で少し物足らず　米澤　田樂坊
惣領に生れて親の有難味　平　東天紅
大きいと譽めれば坊や伸びて見せ　米澤　田樂坊
在りし日の唯七といふ名が戀し　羽前　默哉
辯護士に聞けば負けッこないといふ　平　文狂
居所が知れる頃には處女ならず　同　新坊
融通が利かず先生にしておかれ　平　文狂
諦めが新たに還る魂迎へ　湯長谷　狂水
母の居た時とは違ふ父となり　米澤　田樂坊
御祈禱の札を殘して退院し　羽前　默哉
吊り臺が病院を出る青い月　平　滿壽莊
ひきがへる泰然として蚊をすゝり　同　同
人
淸き一票が散々に汚される　川前　徐花郞
限院に細がれた手を振つて見る　平　文狂

地
地につける物のすべては地に還り　米澤　梅月
本當の己れに還る日が欲しい　同　田樂坊

天
大宇宙やつぱり俺が唯一人　同　梅月

選者吟　吉成劍突坊先生
安泰に暮らせと神はのたまへり
融和する家族に若く死んで行き
八百萬不孝をいれぬ奥の院
線香の煙り眞人を惜しまれた
叫んでも呼んでも還る譯でなし
惣領の後妻になしむ三回忌
永却に眠り名譽の偉大なる
長廊下唯に淋しい影が見え
人間を鬼さ稱して怖がらせ
人々の感謝に淸い意地を見せ
賑やかに來るのを墓地は待つて居る
外の子を士卒にしてる日吉丸

縣議立候補者諸彥に一言

平新報社

本社は縣議改選に直面して各立候補者諸彥の政見と抱負を聽きこれを[illegible]本紙上に掲載し一般有權者に公[illegible]するため本社安藤編輯主任と山野邊主幹その任に當るにつき候補者各位は各訪問の折は隔意なき抱負を[illegible]むものである

話耳目

△普選普選と叫んであらゆる犧牲者を出して得た普選の行使も目前に迫つた……普選然し立候補する吾人の代辯者は相變らず有產階級者にして既成政黨屋に多い樣である、明治初年の政治家、政黨者は身命を賭して自由を叫んで私心なかつた志士が多かつた、然るに現時の所謂政治家政黨に深入りして居る人には民衆はサテ措き自家の事業利權の許、認可の運動屋が多い感がする何たる時勢の移り變りであらふ。

◆吾人は縣政に參與する縣議を選ぶに直面し、その立候補者連が果して民衆のため、地方のため獻身的の力を致し呉れるや否やに思をハセねばならぬ、彼等立候補者の私心、名譽等を滿足せしめんがために投票をしてはならぬ、自己のために地方のためになし呉れる、政見と抱負を持す人を選ばねばならぬ財界の不況にれ、無職者が累增し、思想が惡化しつゝある、これが救濟と指導のために施設をなすべく心しつゝある縣議候補幾人かある、普選布かるゝも新人出でず筆者常に力說する、生活即政治、生活を離れて何處に政治ありや、吾々同胞に職なくして自ら身命を絕ち餓死するもの一人でもあつては善政とは稱し得ないのである。

祝 平新報參週年

小田炭礦株式會社 萩原伸八 好間村

仁壽生命監督所長 三溝幾馬 平町仲町

平町九品寺住職 遠藤心光

植木草花「皐月」養生販賣 百花園 平町四軒町

明賢寺住職 藤内祐成 好間村大館

平町才槌小路 酒井猶次

平町城山 大和田豐吉

磐崎村 藤原

小島興業部

瀧德也

三井炭礦 礦業所

贊援磐中同窓活躍號、、、、、、

酒類釀造業 第十五回 高木吉男 渡邊村

初秋にふさはしい洋服

ラーミー	上下組	三圓五〇ヨリ
ポプリン	全	三、五〇ヨリ
黑セル	上衣	七、五〇ヨリ
アルパカ	全	四、八〇ヨリ
上等パンピスズボン		三、五〇ヨリ
白セル	全	四、五〇ヨリ

平町二丁目 なかや洋服店 電話二〇三番

◎本紙愛讀者に對し特價提供 各種甘味ブドー酒

親切で貰ひよき店

山野邊藥局 (支那六神丸特約販賣す) 平町五丁目角